

2024年度
金沢学院短期大学
学生の学修状況・学修成果等の
検証報告書

2025年3月31日
金沢学院大学

I. アドミッションポリシーの評価（2024 年度入学生の評価）

1. 一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

- ・2024 年度入学生に対して、入学直後に実施した学内共通の基礎学力確認テスト（英語・数学）の成績に基づいて判定。受験者は 125 名（昨年度比－27 名）。
- ・英語（35 点満点）の平均は、短大全体で 16.8 点（ $SD = 6.25$ ）となり、前年度比＋では 0.5 点。学科別では、現代教養 16.5 点（ $SD = 6.27$ ）で前年度比＋0.8 点、食物栄養 17.9 点（ $SD = 6.31$ ）で前年度比＋0.8 点、幼児教育 15.9 点（ $SD = 5.99$ ）で前年度比＋0.5 点であった。
- ・数学（30 点満点）の平均は、短大全体で 20.7 点（ $SD = 4.54$ ）となり、前年度比では－0.1 点。学科別では、現代教養 20.6 点（ $SD = 4.11$ ）で前年度比＋1.2 点、食物栄養 21.2 点（ $SD = 4.71$ ）で前年度比－1.0 点、幼児教育 20.2 点（ $SD = 4.86$ ）で前年度比＋0.7 点であった。
- ・総合成績（65 点満点）の平均は、短大全体で 37.5 点（ $SD = 9.47$ ）となり、前年度比では＋0.4 点。学科別では、現代教養 37.2 点（ $SD = 9.44$ ）で前年度比＋2.0 点、食物栄養 39.1 点（ $SD = 8.79$ ）で前年度比－0.2 点、幼児教育 36.2 点（ $SD = 10.00$ ）で前年度比＋1.2 点であった。
- ・短大全体でも学科ごとの比較でも、英語・数学・総合成績とも、前年度並みの成績である。
- ・短期大学では、入試区分ごとの入学者数に極端な偏りがあるため、区分ごとの評価および比較は困難である。

2-1. 入学時の学修意欲と学修への興味関心

- ・2024 年度入学生に入学直後に実施した新入生アンケートから、学修意欲と学修への興味関心を問う 2 項目を取り出して集計。回答者数は 125 名（対象とした項目には欠損値なし）。
- 「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（有効回答数 125 名分）
 - ・「とても持っている」または「まあまあ持っている」という回答は、短大全体で 97.699.4%（前年度比－1.8 ポイント）。有効回答数のうち、119 名がこれらのいずれかで回答している。残る 6 名は、「あまり持っていない」という回答（現代教養 3、食物栄養 2、幼児教育 1）である。学科別でも、いずれも 95%以上（現代教養 93.8%，食物栄養 95.1%，幼児教育 97.2%）である。
- 「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」（有効回答数 125 名分）
 - ・「一致している」または「一致していないが、興味関心に近い分野」という回答は、短大全体で 92.8%（前年度比＋3.9 ポイント）。学科ごとの集計では、現代教養 93.8%，食物栄養 85.4%，幼児教育 100.0%。現代教養では前年度比＋15.8 ポイントとなり、興味関心との一致が図られていることがわかる。「まだ自分の興味関心がわからない」または「入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない」という回答は、合計で 6.4%（125 名中 8 名、現代教養 3、食物栄養 5）であった。

2-2. 入学時の学修への期待感および学修継続の意思

- ・2024 年度入学生に入学直後に実施した新入生アンケートから、後の学修や大学生活への期待感、大学生活へのイメージの有無を問う 3 項目を取り出して集計。回答者数は 125 名（対象とした項目には欠損値なし）。
 - 「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」（有効回答数 125 名分）
 - ・「とても楽しみ」または「まあまあ楽しみ」という回答は、短大全体で 88.8%（前年度比－3.8 ポイント）。学科別の集計では、現代教養 87.5%、食物栄養 87.8%、幼児教育 91.7%。
 - 「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」（有効回答数 125 名分）
 - ・「ある」または「まあまあある」という回答は、短大全体で 56.8%（前年度比＋3.1 ポイント）に留まる。学科別の集計でも、現代教養 54.2%、食物栄養 56.1%、幼児教育 61.1%となった。前年度よりはやや高い数値になっているが、依然として半数の学生が学生生活のイメージが十分形成されていないことを示している。
 - 「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」（有効回答数 125 名分）
 - ・「とてもそう思う」または「どちらかといえばそう思う」という回答は、短大全体で 96.0%（前年度比＋0.3 ポイント）でほぼ前年度と同じ。学科別の集計では、現代教養 95.8%、食物栄養 92.7%、幼児教育 100.0%となった。

3. アドミッションポリシーに関する総合評価

- ・以上の結果から、アドミッションポリシーにかなわない学生が入学しているとは言えず、現在のアドミッションポリシーには不適切な点はないと判断できる。
- ・一方で、学生生活のイメージ形成の低さについては、入学者全体の約 4 割がイメージを持っていない。食物栄養学科と幼児教育学科は、卒業時に資格取得を目指す学科であり、これらの学科においても大学生活へのイメージ形成が低いことを踏まえ、今後の指導に留意する必要がある。

II. カリキュラムポリシーの評価（2023 年度の評価）

- ・2022 年度に開講された科目のうち、卒業単位に算入される科目のみを取り出し、教養科目と外国語科目の必修科目、専門科目の必修科目と選択科目に分け、成績評価の比率（秀・優・良・可）と合格率（単位修得率）、履修登録者に占める履修放棄の比率を算出した。

1. 合格率

- ・合格率の平均は、対象とした区分でいずれも 90%以上。最も低い値は、現代教養学科の「基盤科目」の選択科目で 90.7%だが、その他の科目区分ではすべて 95%以上となる。

2. 履修放棄率

- ・履修放棄率の平均は、対象とした科目の大半で 20%未満。履修放棄率が高いのは、実習科目または履修者数が 1 ケタ台の数科目に留まる。現代教養学科では、選択科目の区分で放棄率が高くなる傾向がある。

3. 科目ごとの評価割合

- ・対象とした科目において、「秀」と「優」の評価の合計が 50%を超える学科はない(現代教養 38.6%、食物栄養 43.0%、幼児教育 43.2%)。現代教育学科では、「良」と「可」の評価が 56.5%で、成績評価が高いほど比率が低くなる傾向がある。評価内訳が「可」に偏る(45%以上)科目は、現代教養学科 96 科目中 20 科目、食物栄養学科 58 科目中 10 科目、幼児教育学科 63 科目中 6 科目となっており、現代教養学科において低い評価がやや多くなる傾向が見られる。

4. カリキュラムポリシーに関する総合評価

- ・今回対象とした主要科目の履修に顕著なつまづきが見られた学科はなかった。合格率には問題はないが、現代教養学科で全体に低い評価がつく科目が多く見られている。履修放棄率が極端に高くなるなどの結果は見られなかった。したがって、即時にカリキュラムの改訂ならびにカリキュラムポリシーの見直しが必要になるような状況は存在せず、ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない教育課程にはなっていないと言える。

Ⅲ. ディプロマポリシーの評価(2023 年度の評価)

・卒業研究等の評価

各学科の科目から、卒業研究に相当する科目を選び、合格率、履修放棄率、各成績の内訳を算出した。

・卒業率(2 年間で学修達成率)

2021 年 4 月に入学し、2023 年 3 月に 2 年間で教育課程を修了して卒業した学生の数を、入学当初の入学者数に対する割合で示した。

・就職内定率

各学科の就職希望者に対する内定者数(2023 年 3 月 31 日時点)の割合で示した。幼児教育学科においては、保育士・幼稚園教諭への就職率も示した。

1. 卒業研究等の評価

- ・現代教養学科、幼児教育とも合格率 100%であった。食物栄養学科には、卒業研究に相当する科目はない。
- ・評価の割合については、現代教養学科「秀」と「優」の合計が 32.2%である一方、「可」が 39.0%

となり、前年度同様にやや低い評価への偏りが見られている。幼児教育では、「秀」と「優」の合計が 42.9%となり、前年度比で 19.6 ポイント上昇した。

2. 卒業率

- ・全学科で 85%を超えた（現代教養学科 95.2%、食物栄養学科 98.4%、幼児教育学科 86.8%）。

3. 就職内定率

- ・全学科で 100%となった。
- ・幼児教育学科の保育士・幼稚園・認定こども園・養護施設等への就職は 27 名で、就職希望者の 77.0%を占めた。

4. ディプロマポリシーに関する総合評価

- ・現在のディプロマポリシーに実情に合わない不適切な点はないと判断される。ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない学生には学位を授与していないと言える。

以上